

遺品整理は粛々と 業者選びのポイント

高齢社会となり一人暮らしで亡くなるお年寄りが増える中、親族だけで片付け切れない故人の遺品を整理し、処分する業者へのニーズが高まっている。親族の気持ちに寄り添った整理が心のケアにもつながると期待される一方、悪質業者によるトラブルも多発しており、業者選びには注意が必要だ。遺品整理への向き合い方を探った。

遺族の負担軽く

価値を見極めて分別

埼玉県春日部市の野口けい子さん(48)は、3年前に父を入院先で亡くした。その後、母が老人福祉施設に入所し、空き家となった実家の整理に追われる。

一人娘で、結婚後は実家を離れていた。「書斎も寝室も生前のまま。重要書類も貴重品も分らず、何から手を付けていいのか途方に暮れた」と振り返る。

2年ほど前に遺品整理士の渡邊眞理さん(49)を知り、依頼して一緒に片付け始めた。まず、書類や本などを仕分けし、一気に2トトラック1台

分を処分した。その後、時間を見つけて整理する。背広や時計など一品一品チェックしながら「作業中にご遺族が涙を浮かべる様子を見せた

価値を見極めて分別する。背広や時計など一品一品チェックしながら「作業中にご遺族が涙を浮かべる様子を見せた

価値を見極めて分別する。背広や時計など一品一品チェックしながら「作業中にご遺族が涙を浮かべる様子を見せた

価値を見極めて分別する。背広や時計など一品一品チェックしながら「作業中にご遺族が涙を浮かべる様子を見せた

価値を見極めて分別する。背広や時計など一品一品チェックしながら「作業中にご遺族が涙を浮かべる様子を見せた

価値を見極めて分別する。背広や時計など一品一品チェックしながら「作業中にご遺族が涙を浮かべる様子を見せた



背広のポケットなど中身を確認めながら、整理する野口さん(埼玉県春日部市)

トラブルが多発

不法投棄や高額請求

業界団体の遺品整理士や依頼が徐々に増えており、2014年9月は24

件に上った。遠方から実家の片付けに通うのが困難だったり、自身が高齢で重い物が運べなかったりと理由はさまざまだ。

大きな農家など遺品が多過ぎて親族だけでは整理し切れず、業者に依頼するケースもある。

遺品整理業は特別な資格がなくてもできることから、廃品回収、清掃、リフォームなどの業種か

ら参入が増え、現在、全国で6000〜7000社に上るとみられる。

問題は、悪徳業者による遺品の不法投棄や貴重品の無断持ち出しなどがあること。高額請求も深刻だ。協会の不正防止情報センターには毎月5〜15件の相談が寄せられる。二十数万円の見積もりが46万円請求された。消費生活センターに通報し、その旨を業者に伝えたら10万円返金された。「作業日数を減らしたいと伝えると金額が3倍になると言われ、怖くなったので解約したい

が、応じない」。他にも「大事な遺品をごみのように扱われて、気持ちが悪かった」など苦情が相次ぐ。

遺品整理は、業者によって対応方法、サービス内容が異なる。費用は量、期間、作業人数などで変わり、数十万円から数百万円までまちまちだ。

同協会は「遺品整理は、大切な故人とお別れする最後の儀式の一つ。トラブルに巻き込まれないよう、業者を見極めてほしい」と呼び掛ける。

遺品整理・トラブル回避のため業者を見極めるポイント

- 制服がある
- 電話で連絡先が確認できる
- 会社概要の詳細を、ホームページやチラシ広告に明示している
- 人件費、清掃費、追加項目費用などで詳細な見積書を提示する
- 作業工程の進み方、注意点などを詳しく説明する
- 買い取りやリサイクルに対応する

※遺品整理士認定協会のお話を基に作成